

本書の特色

この本は、中学3年生の夏休み前までの学習内容を中心につくられたテキストです。基本的な力をつける問題から、応用・発展的な難易度の高い問題まで盛り込まれているため、これまで学んできたことを効果的に身につけることができます。

また、講習準備テストと総合確認テストがついているので、苦手分野の把握や最後の効果測定に役立ててください。

本書の使い方

- **ポイント整理**……その課で学習する内容をまとめています。きちんと理解していきましょう。
- **確認問題**……ポイント整理で学習した内容を踏まえたうえで、基本的な問題に取り組みしていきます。
- **演習問題**……演習問題Aと、さらに発展的な演習問題Bの二つの問題で構成されています。文章をしっかり読み取り、設問に取り組むことで、自信をつけていきましょう。また、「思考力問題」には◎をつけています。
- **漢字のトレーニング**……高校入試で頻出の漢字により構成されています。
- **総合問題**……本書の総まとめの問題です。

もくじ

1	説明的文章(1)	2
2	説明的文章(2)	8
3	説明的文章(3)	14
4	文学的文章(1)——小説文1	20
5	文学的文章(2)——小説文2	26
6	文学的文章(3)——随筆文	32
7	古典(1)	38
8	古典(2)	42
9	詩歌(1)	46
10	詩歌(2)	50
11	文法	54
12	資料問題	58
	設問別対策コーナー	62
	総合問題	70

ポイント整理

★文章の書き方

- (1) 主題を決め、書く材料をいろいろメモに書き出す。
- (2) 主題が読み手にはつきり伝わるように、組み立てを考える。
- (3) 文体を統一して書く。
- ※「です・ます」調(敬体)と「だ・である」調(常体)を混用しない。
- (4) 一文が長くなりすぎないようにする。

※主述の対応に注意。

※修飾語は被修飾語のできるだけ直前に置くと誤解のない表現になる。

- (5) 同じ表現ばかりにならないように、変化をつける。

- (6) 書き終えたら読み返し、誤字、脱字、送り仮名の誤りなどがないか、読み手にわかりやすい文章になっているかを確認する。

★さまざまな資料の読み取り方

- (1) スピーチ原稿：構成(序論→本論→結論)に注意してテーマをつかむ。
- (2) 話し合い：発言内容、立場による発言の違い、発言のルール、司会の役割などをおさえる。

- (3) ポスター：見出し、タイトル、標語などから内容をおさえる。

- (4) 新聞：内容の重要度は見出し▽リード(要約文)▽本文の順

- (5) 要点は見出しやリード文から、詳細な情報は本文から読み取る。
表・グラフ

・見出しから調査内容や対象をおさえる。

・グラフの種類に応じた着目点

折れ線グラフ：数量の時間的推移

棒グラフ：数量の比較や順位

円グラフ、帯グラフ：構成比率

確認問題

1 次の各文は主述が正しく対応していません。正しく対応するよう、例に

ならって——線部を書き換えなさい。ただし、常体のままで書くこと。

例 祖父の長所は、驚くほど気が長い。

気が長いことだ

- (1) 彼の将来の夢は、大きなビルや橋を造る建築家になりたい。

- (2) わたしの夏休みの目標は、文法をしっかりと復習する。

2 次の各文を、()内の意味がはっきり伝わるよう、全文を書き換えな

さい。

- (1) 年老いた彼の猫が、大きく一つ伸びをした。(「年老いている」のは猫)

- (2) 青年は眠ったふりをして座っている中年の男を観察した。(「眠ったふりをしている」のは青年)

- (3) 学級委員の彼の友だちは、野球部のエースだ。(「学級委員」なのは友だち)



中学生の浅井^{あさい}さんは、学校で海洋プラスチックごみについて発表しました。次の【スピーチ原稿】と【グラフィ1】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【スピーチ原稿】

今日は、海洋プラスチックごみの問題について発表します。

プラスチックごみについては、世界中で削減のための取り組みが進められています。レジ袋が有料化されたり、いろいろな製品の包装がプラスチックから紙などに変わったりと、皆さんの日常生活の中でもいろんな変化があったのが記憶に新しいのではないのでしょうか。

捨てられたプラスチックが最終的に行き着く先は海で、二〇五〇年までには海洋中に存在するプラスチックの量が魚の量を超過するという試算が二〇一六年に出たことで、世界中で一気に対策が進んだそうです。しかし、日本の一人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量は、米国に次いで二番目に多く、まだまだ日本での取り組みは遅れているようです。

では、大量に廃棄されたこれらのプラスチックはどう処理されているのか知っていますか。

日本では約八割が有効利用されていると言われていますが、調べてみると、その約六割は、燃やしてエネルギーを利用する「サーマルリサイクル」だそうです。皆さんはこれを聞いてどう思いますか。燃やすとCO₂を排出するということになり、地球環境全体のことを考えると問題があるのではないかと私は思います。

それだけではありません。日本は大量のプラスチックくずを資源として中国などアジア諸国に輸出してきたそうです。【グラフィ1】を見てください。

【X】ことがわかります。これは中国が環境問題に配慮し、プラスチックくずの輸入規制を始めたためです。これ以降日本は、アジアの他の国にもプラスチックくずを輸出するようになりました。処理体制の整っていない他のアジアの途上国にプラスチックくずを押し付けることで、アジアからの海洋プラスチック

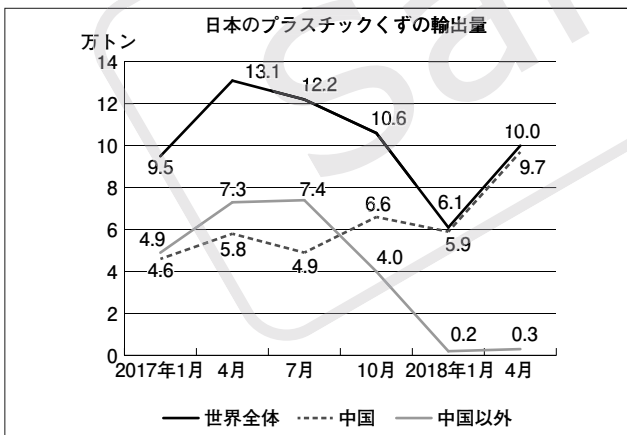
20

15

10

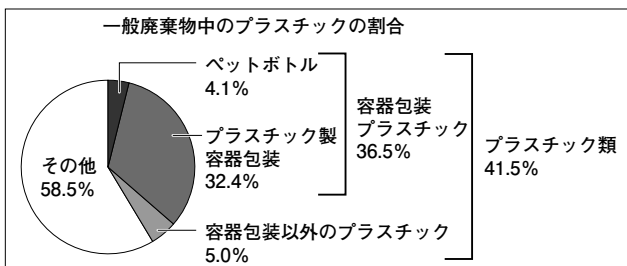
5

【グラフィ1】



環境省公開資料
「我が国のプラスチックくずの輸出量」(令和元年)より作成

【グラフィ2】



環境省平成二十四年度調査
「一般廃棄物中の容器包装以外のプラスチックの割合」より作成

くごみ流出を加速させていると批判されています。中国に代わる輸出先を探すのではなく、プラスチックくずを輸出すること自体を見直すべきではないでしょうか。

そこで、プラスチックごみの量を減らすために私たちができることは何かについて考えました。【グラフィ2】を見ると、一般廃棄物全体の中でプラスチックの割合は四一・五%、容器包装プラスチックは三六・五%です。容器包装、つまり使い捨てプラスチックの割合が高いことがわかります。これらは、消費者である私たちに直接関係するプラスチックの利用に関するものです。そのため、プラスチックごみを削減していくために、

海洋プラスチックと言うと、身近な問題としてイメージしにくいですが、自分たち自身の問題として、毎日の生活の中で取り組めるテーマだということを、たくさんの人に知ってほしいと思います。

35

